

平成28年度後期 学部(群)教育改善計画

学 部 (群) 名	共通教育(基盤教育群)
学部(群)長名	金子孝一

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学部(群)全体で改善すべき重点課題について3つ挙げてください。	
①	カリキュラム編成が変わり、授業評価科目運営の連続性(科目と教員)が担保されていないこと
②	基盤教育の科目分野ごとの括りはできたが、分野教員がすべき教育改善のタスクが決めきれていないこと
③	教育改善の系譜、履歴という遺産が教員個人に埋没していて顕在化できていないこと。
1-(2). 上記の3つの課題をそれぞれ解決するための取組と、その具体的な進め方(5W1H等)について書いてください。	
①	新カリが動いた H29 年度にあって、多くの非常勤担当が専任化され、授業評価科目運営の連続性が担保できる環境に近づきつつある。この環境を教員会議などの共有機会を使って、科目運営そのものの課題を明らかにし、教育費予算も含め改善に向けた実践の実効性を高めたい。(お金と仕組みと組織)
②	4年後のさらなるカリキュラム改変を視野にいて、現在の新カリの科目分野の括りをベースに、科目群ごとの改善課題把握と個々の科目への反映を目指して、分野教員 Mtg や研修・研究会(マイクロ FD)に予算をつけて実効化できる体制の整備をしたい。特に、学群を超えて多くの教員が参加する FC 群と、基盤群所属教員の多くが参画するグローバルコミュニケーション分野は再区分を検討したい。
③	②の取組みにおいて、履歴を残せる、ケースを記録しておく、さらに見える化ができる＝講義で受講生と Share できる仕組み、表現方法などを検討したい。(まずは、アラジン・ニガーラの授業評価システムの稼働を心待ちにしたい)

2-(1). 各科目の授業改善計画書から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。	
・到達目標の受講生への周知法の工夫並びに科目群での統一した取り組み ・文字情報以外の映像や音声などメディアなどの取込みと文化・歴史比較などへの興味の誘引 ・オリジナルテキスト作り ・自宅学習時間を確保してもらうための復習や予習のミニクイズなど	
2-(2). 上記の事例を学部(群)全体でどのように共有して教育改善につなげていくか、具体的な進め方(5W1H等)を書いてください。	
1-(2)で記載した教員会議、科目分野 Mtg・研究会(マイクロ FD)を使った情報・事例発掘と共有の継続をマネジメントしてゆく。方向は、授業改善を教員個々だけでなく、分野教員 Gr の問題としても扱い、課題解決のグループ・ダイナミックスを期待すること。	